

# かま屋通信

毎日 いただきます

2025年

1  
月号

vol.88

炭一俵  
米と替えたる  
戦後かな

神山俳句会

(森健州さんの俳句)



替わり、秋がないことへの寂しさを感じました。私自身なかなか季節に順応できず、調子を崩し困っていました。12月下旬にもみじの紅葉が始まったり、ケール畑でモンシロチョウが飛んでいるのを見たりもしました。昨年、一番印象に残っている出来事は今も世間に騒がしている「米騒動」です。

常にみんなの身边にあり、「いつでも、誰でも、安く」買ったはずのお米が、ある日突然買えなくなった。価格が何倍にもなり、売り切れ状態が続々。私とお届け係の石田(流通のプロ)と2人で騒動の当初は「米はなくならないだろうから天丈夫」と予測していました。蓋を開けてみると、そんなことはない。まるで食堂のお米の手配で大変苦労しました。そんな危機的状況を助けてくれたのは、立ち上げ初期からかま屋のお米でお世話になっている「阿波の北方農園」の三木さん夫婦でした。どんどん価格が上がりしていく中で、お米を手配してい

ういう話。特にコシヒカリに関しては、品薄と価格高騰が続くこのことでした。原因は、冒頭にも書いた異常気象による生産量の減少となりにくいお米を食べたいという需要のミスマッチのようです。この数年、異常気象が日常化している夏場には毎日のように猛暑日が記録されています。コシヒカリは昭和31年に生まれた品種で、猛暑の中でも育つことを想定された品種ではありません。だからこそ皆が必要としている品質を保つことが非常に難しくなってきています。消費者と生産者がコミュニケーションを取り、大きな舵取りをするタイミングがきているのだと思

います。私も、神山で育てる品種を去年から高温耐性品種である「あきさかり」に変更しました。さつぱりとしたお米で、当初は少し物足りなさを感じていたのですが、おかげと一緒に食べるお米としては気に入っています。中には変化を嫌う方もいますが、食べててくれる人にも特徴をちゃんと説明し、販売しています。ちなみに三木さん曰く、あきさかりなどコシヒカリ以外の品種は安定化してきているとのこと。

ただしここで、なぜかま屋が「地産地食」「フードハブ」を貫くのか、それがまたまた別の話になります。それは、この「米騒動」が、まさにこの「地産地食」「フードハブ」の実現を助けてくれたからです。この「米騒動」は、まさにこの「地産地食」「フードハブ」の実現を助けてくれたからです。



## 令和の米騒動から学ぶ

新年明けましておめでとうございます。みなさま、どのようにお正月をお過ごしでしょうか? 私は自身で育てた神山在来の餅米を、年末に家族と杵臼について、その餅を食べながらお正月を過ごしております!

昨年は気候に振り回された年、12月の頭に夏から冬へと急に切り

替わり、秋がないことへの寂しさを感じました。私自身なかなか季節に順応できず、調子を崩し困っていました。12月下旬にもみじの紅葉が始まったり、ケール畑でモンシロチョウが飛んでいるのを見たりもしました。昨年、一番印象に残っている出来事は今も世間に騒がれている「米騒動」です。

常にみんなの身边にあり、「いつでも、誰でも、安く」買ったはずのお米が、ある日突然買えなくなった。価格が何倍にもなり、売り切れ状態が続々。私とお届け係の石田(流通のプロ)と2人で騒動の当初は「米はなくならないだろうから天丈夫」と予測していました。蓋を開けてみると、そんなことはない。まるで食堂のお米の手配で大変苦労しました。そんな危機的状況を助けてくれたのは、立ち上げ初期からかま屋のお米でお世話になっている「阿波の北方農園」の三木さん夫婦でした。どんどん価格が上がりしていく中で、これが深掘りをしていかなければいけないなあと

ただ本当に助かりました。そんな三木さん夫妻、石田、私の4人で、今回の米騒動について話す機会がありました。米の栽培、流通とともに精通しているお一人と話をしながら徐々に理解できました。

そんな中で、私は、この「米騒動」が、まさにこの「地産地食」「フードハブ」の実現を助けてくれたからです。

このように、気象条件の変化が一時的ではなく、恒常的に食の環境を左右することが起こり始めています。食べ物を「いつでも、誰でも、安く」は、近い未来に必ず崩れてくると考えます。「旬や気候にあったものを、決まった人に、適正価格でしか売らない、買えない状況が現実にやってくると思います。私は、作り手としてそのような状況になった時、誰の食生活を支えるのかを考えると、適正価格で買ってくれる、お互いに顔が見えている人が優先順位の最上位にいるなあと思います。米騒動で困った時、助けてくれた阿波の北方農園の三木さんのように。だからこそ、2016年から始めた「地産地食」や「フードハブ」という考え方を「初志貫徹」し、作り手として、食べ

するタイミングがきているのだと思

# 異常気象が食環境を左右する今、改めて「地産地食」「フードハブ」を貫く



共同代表:  
白桃 薫







